

施肥・灌水精密制御による品質保証できる トマトの袋培地生産技術

1 中核機関・研究総括者
愛知県農業総合試験場
榊原 正典

2 研究期間
2003～2005 年度（3 年間）

3 研究目的

トマト主産地の愛知県三河地域では、外国輸入野菜に負けない競争力のあるトマト産地の育成が急務となっている。

このため、これまで培ってきた養液土耕栽培での節水・減肥を目指す環境保全的施肥・灌水制御技術にプラスして、新たに木材樹皮等の未利用資源をリサイクル活用した軽量・安価な培土や、維持管理の容易な画期的小型水分センサを開発し、低コストで、高品質・高収量を実現できる 30 L の袋培地を利用した施肥・灌水精密制御システムを開発するとともに、トマトの長段どり年 2 作周年栽培での糖度 6 度以上を実現できる生育ステージ別の栽培管理マニュアルを策定する。

4 研究内容及び実施体制

軽量・安価なリサイクル培土の開発〔愛知県農業総合試験場、三河ミクロン(株)〕

杉皮等未利用資源を利用した袋培地用の軽量、安価な培土を開発する。

小型水分センサの開発と実用性評価〔愛知県農業総合試験場、(株)ケネック〕
メンテナンス・フリーで使用できる小型水分センサを開発し、少量高頻度多回数灌水制御器と組み合わせ、精密灌水に利用する

品質保証できる袋培地生産システムの開発と栽培手法の策定〔愛知県農業総合試験場〕

低コストな袋培地生産システムを開発・実用化し、消費者や流通が求める糖度 6 度以上の品質保証できるトマトの栽培管理マニュアルを策定する。

袋培地生産システムの現地導入と経営評価〔愛知県農業総合試験場、JA 豊橋トマト協議会〕

開発技術の現地適応性及び経営的評価を行う。

5 目標とする成果

節水、減肥の環境に優しい低コスト袋培地生産システムの開発及びこれを活用した精密施肥、精密灌水技術の確立により、品質保証（糖度 6 度以上）と定量安定供給できる強力な東三河トマト産地を育成する。これによりトマト農家の経営体質が強化され、東三河特産トマト産地の強化・活性化等が期待される。